

熊本県立八代東高等学校 令和6年度(2024年度)学校評価計画表

1 学校教育目標

校訓「向学 敬愛 礼節」のもと、商業及び体育の専門的な教育活動を通して、世界に誇れる日本の伝統精神としての礼節や豊かな感性、思いやりを育み、時代の変化に対応・挑戦できる資質と態度を養い、企業や大学等との連携・協働を図り、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する

2 本年度の重点目標

(1) 人間性と人間力

- ア 凡事徹底により基本的生活習慣(あいさつ・遅刻指導の徹底)の確立
- イ 豊かな感性や思いやり(コミュニケーション能力)の育成
- ウ 社会の一員としての自覚と責任感(態度教育)の育成

(2) 相互理解と対応

- ア 道德教育・人権教育(命の大切さ・いじめを許さない)の推進
- イ 共同体感覚(相互尊敬・相互信頼)の育成
- ウ 環境(社会の変化・グローバル化)に応じた態度の育成

(3) 学力・競技力の向上と希望進路の実現

- ア 自己管理(心身の健康)能力の育成
- イ 育成・自己実現のための学力(基礎・基本)の向上
- ウ 専門教育(商業・体育)の充実を図り、主体的に自己実現を目指す態度の育成
- エ 授業や行事において主体性を育成(自ら考え、選択・表現できる活躍の場を設ける)

(4) 学校の魅力化

- ア 環境(安心・安全)整備の徹底
- イ 地域に求められる人材と世界に羽ばたく人材(社会性・向上心)の育成
- ウ 失敗を恐れず、新たなことに取り組む(挑戦する)学校

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校教育目標達成にむけた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の具現化のために、教職員の共通理解が図られているか ・学校教育目標を踏まえたPDCAサイクルがおこなえているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会議や各分掌の会議を定期的開催し、情報の共有化を図る ・年度末反省を踏まえた数値目標の6割を達成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題に対応した職員研修を定期的に行う ・年度末反省等をもとに学校教育目標の数値化を図り、各分掌で改善に取り組む 	A	<p>○学校の課題に対応した職員研修を3回実施することができた。</p> <p>○年度末反省を踏まえた目標の6割以上を達成することができた。</p> <p>●学校評価計画表に年度末反省を踏まえた学校評価計画に改善する必要がある。</p>
	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会等への保護者が積極的に参加しているか ・アンケート等により保護者の学校行事参加の意見をくみ取っている ・地域行事、ボランティア活動に生徒保護者教職員が参加しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会の出席率を50%以上とする ・東高マーケットの食バザーや馳走会への保護者参加をえる ・地域行事（八代妙見祭等）に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・早めの周知を行う ・土曜日に開催することで出席率を向上させる ・PTA本部役員を中心に保護者参加の呼びかけを依頼する ・同窓会やPTA等の関係機関との連携を図り、呼びかける 	B	<p>○PTA総会の早期周知、土曜日開催を行うことができた。</p> <p>●PTA総会の出席30.4%、（委任状含94%）であった。</p> <p>●食バザーや馳走会への保護者参加者を増やす取り組みが必要である。</p> <p>○妙見祭に12人、校外の募金、花大会のボランティアにのべ19人が参加した。</p>
	開かれた学校作り	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学への参加中学生が増加しているか ・本校への志願者が増加しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や学習活動について積極的かつ継続的に情報を発信し、本校の魅力を伝える ・中学生体験入学への参加者数を160名以上とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや「すぐる」を活用し、情報発信を行う ・近隣中学校への訪問活動を積極的に行う 	B	<p>○HPを毎週更新することができた。また、すぐるを活用し、毎週保護者に学校情報を配信することができた。</p> <p>●中学生体験入学では、144人の中学生が参加した。目標数には届かなかった。</p> <p>○アンケートから100%の中学生に好評との結果を受けた。</p> <p>○近隣中学校での上級学校説明会にはすべて出席し、学科主任が個別に訪問活動を行った。</p>

	業務改善、働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善に取り組んでいるか ・働き方改革に取り組んでいるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースリフレッシュを実施し、不要物を1割削減する ・会議のペーパーレス化を推進する ・一人当たりの月平均時間外勤務を30時間以内に抑える ・多様な働き方を実現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・不要な紙の資料を廃棄する ・ICT機器を活用し、職員会議の一部ペーパーレス化を行う等校務情報化に取り組む ・育児時間、時差出勤等を実施できる環境を構築する 	B	<p>○年間をととしてスペースリフレッシュを行い、不要な紙の資料を破棄することができた。</p> <p>○月平均の時間外勤務時間が30.11時間であり概ね目標を達成することができた。</p> <p>○時差出勤者が10人と多様な働き方が可能な職場づくりを行うことができた。</p> <p>●昨年度より減少したが、月の超過時間が80時間を超える職員がいた。</p>
学力向上	授業の工夫、改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的事項の定着を図っているか ・思考力・表現力・判断力の育成に向けた授業改善を行っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価において、「授業が充実し、基礎・基本の徹底が図られ、学力向上に役立っている」の項目で「大変そう思う、そう思う」の割合が90%を超える 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導力向上のための教科等研修会への参加を推進する ・公開授業週間を設定し、相互の授業改善に努める ・ICT活用や学習評価について、ニーズに応じた研修を行う 	B	<p>●授業評価アンケートにおいて、「授業が充実し、基礎・基本の徹底が図られ、学力向上に役立っている」の項目で「大変そう思う、そう思う」の割合は84%だった。</p> <p>○各教科で校外の研修会や協議会に積極的な参加があった。</p> <p>○公開授業では、昨年よりも多くの来校者があり教員、生徒にとってよい刺激となった。</p> <p>○学習評価についての職員研修を実施した。</p> <p>●生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善につなげる。</p>
	個に応じたきめ細かな指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに応じた効果的な支援が行われているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価において、「一人一人の特性に応じた個別指導を大切にした授業が行われている」の項目で「大変そう思う、そう思う」の割合が70%を超える 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における考査前学習会を実施する ・各教科における個別指導時間を確保する 	B	<p>○生徒による授業評価において、「一人一人の特性に応じた個別指導を大切にした授業が行われている」の項目で「大変そう思う、そう思う」の割合は73%だった。</p> <p>○各学年や授業担当で成績不振者を把握し、個別指導を実施することができた。</p> <p>●学習習慣の定着を図る取組みの充実が必要である。</p>
キャリア教育 (進路指導)	指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒の進路意識を高揚させ、明確な目標を持たせることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査において具体的希望を述べる生徒を増加させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内ガイダンスの計画的な実施を行う ・外部ガイダンスへの参加推奨（保護者周知も実施）する ・個別の希望に応じたガイダンスを実施する 	C	<p>○進路希望調査で具体的希望を述べた生徒は、40%から52%に増加した。</p> <p>○学科別ガイダンスを新たに実施して、専門教科に関わる職業理解を促した。商業系学科1、2年生の進学希望者51名のうち、15名の生徒が専門教科に関わる分野への進学を希望している。</p> <p>●進路指導の各取組の目的や全体における位置づけ</p>

						<p>が担任に伝わっておらず、生徒・保護者と共有できていない。</p> <p>●本校の進路指導の全体計画と各取組の目的、内容を整理した資料を作成中である。</p> <p>●職員に配付・説明を行い、担任が本校の進路指導について生徒、保護者に説明できる状態にする。</p>
	<p>勤労観と職業観の涵養と進路意識の向上</p>	<p>・望ましい勤労観や職業観を育成できたか</p>	<p>・3年次において、生徒が自らの価値基準に基づいて進路を選択できる</p>	<p>・会社見学、インターンシップを実施する</p> <p>・外部講師等の進路講話を実施する</p> <p>・キャリアパスポート等を用いた自己理解を促進する</p>	B	<p>○3年生全員が志望理由書、模擬面接等で自らの適性や経験にもとづいた志望理由を述べることができた。</p> <p>○第1回運営協議会での委員の御助言にもとづき、進路が決定した3年生を対象に、内定後面談および合格スライド作成（合格先に関する探究）を新たに実施した。入社、入学後の目標設定や意欲向上、不安の解消につなげた。</p> <p>○インターンシップの目標に関するループリックを作成して、事業所と共有した。結果、生徒は適切なフィードバックを頂くことができた。</p> <p>●生徒にとって身近で理解しやすい地域を題材に、社会への理解を深める取り組みの充実が課題である。</p>
	<p>進路希望の達成</p>	<p>・基礎力養成から応用力養成まで、段階的な指導を行うことができたか</p> <p>・個に応じた指導を行ったか</p>	<p>・進路決定率を100%にする</p>	<p>・全教員が参加した模擬面接指導を行う</p> <p>・進学希望者向けの個別指導を行う</p> <p>・適切な外部機関との連携を行う</p>	B	<p>○全体指導に加えて、生徒ごとの受験科目に応じて担当者を配置して個別指導を行った。結果、2月受験予定の2名を除き、3年生全員が進路を決定できた（1月28日現在、決定率97%）。</p> <p>○八代公共職業安定所や先進校の支援を受けながら、職業紹介時の障がい開示・非開示の確認要項を作成し、運用を開始した。個に応じた指導の充実につながった。</p> <p>●入試で求められる学力は一層総合的なものになっている。放課後の指導に依存せず、教育課程内で十分な力を育成したい。受験に向けて、各教科・科目で育成できる力について整理する。</p>
	<p>基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上</p>	<p>・遅刻が減少したか</p> <p>・あいさつをしているか</p>	<p>・年間遅刻平均数を昨年度より10%減を目指す</p> <p>・あいさつ実施を100%</p>	<p>・学年と連携し生徒指導部でも遅刻指導を実施する</p>	C	<p>●学年と連携した遅刻指導があまり実施出来なかった。昨年度：1280、今年度1719（4～12月延べ人数）</p>

生徒指導		<ul style="list-style-type: none"> ・場に応じたあいさつを交わすことができるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・にする ・職員室や各準備室に入室するときにあいさつができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活委員がクラスであいさつ調査をする ・各部屋の教職員が指導する 		<ul style="list-style-type: none"> ●身だしなみ習慣の実施が出来ずあいさつ調査も出来なかった。 ●次年度は生活委員によるあいさつ運動や交通委員によるツーロック施錠運動等の委員会活動を、生徒が自主的に行うよう促し、委員会活動を活発化させる必要がある。
	問題行動の未然防止と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導件数が減少したか ・特別指導生徒の反省は深まったか 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より年間指導件数を減少させる ・特別指導解除後、落ち着いた学校生活ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部・学年、その他関係機関と情報交換を密に行い、事前指導と組織的な対応の実践する ・全職員で指導にあたる 	C	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度は特別指導件数と指導延べ人数は昨年度より増加した。また特別指導中、無断で学校を欠席する生徒が数名いた。（昨年度10件延べ17名、今年度：12件延べ19名）
	交通ルールへの遵守とマナーの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の整備と自転車保険に加入しているか ・ツーロックが徹底できているか ・交通事故が減少したか ・自転車通学生のヘルメット購入したか 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車整備安全点検の徹底と自転車保険加入率100%にする ・ツーロック施錠率100%にする ・交通事故件数「0」を目指す ・ヘルメット着用に向けて、全自転車通学生徒のヘルメットを購入させる ・着用する生徒を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の確実な安全点検と自転車保険加入状況の確認を徹底 ・学期毎のツーロック調査の実施 ・事故対応マニュアルカードの配布 ・交通講話を実施する ・交通関係配付物により適切な交通安全指導の強化を図る 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●年度当初に自転車整備点検（自転車保険含む）を実施し、100%を目指したが、徹底できなかった。 ●予告後ツーロック点検を行ったが、クラスにおいて差があった。施錠率100%を達成できなかった。継続的な啓発・点検を実施していきたい。 ○交通講話を5月に一度実施し、啓発ができた。 ○来年度ヘルメット着用義務化に向けて、継続的に調査、啓発を行った。
	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体性を持って学校行事等に参加したか ・委員会活動に積極的に取り組んだか ・生徒会活動が創意工夫して行われたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会主催の行事等の企画立案、実践を計画的に行う ・生徒会執行部が各委員会と連携し組織的な活動ができる ・昨年度の取り組みの反省点を生かし創意工夫して取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内生活での時間を有効利用し、自主的な生徒会活動の運営を目指す ・月に一度委員会活動日を設ける 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会を中心に学校行事の企画や運営を行うことができた。 ●昨年度の反省を生かすことができたが、生徒会の中でも温度差があった。 ●各委員会によっては活動を実施できたが、組織的にできていない委員会もある。 ●生徒会室前や各学年の廊下等に目安箱を置き、生徒の要望を反映できるように取り組む

人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会による計画的かつ組織的な人権教育が推進されたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会で、情報共有と人権教育推進上の課題等を共有する ・明確な役割分担による各部、各学年との連携することで学校全体での推進体制を構築する 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会を週時間割に組み込む ・必要に応じた各部会、各学年会における協議の依頼と情報共有を行う。 	A	<p>○第1・3月曜日に推進委員会を開催し、ほぼ計画的に取組を進めることができた。</p> <p>○学年ごとに開催した人権教育講演会は学年団と連携してスムーズに実施することができた。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人権問題に関する基本的認識を深め、実践的指導力を高めるような研修が行われたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの教育実践経験、成果や課題等に対して、レポート研修会を通して情報交換を行う ・部落差別をはじめとする様々な人権問題に関する研修を設定する ・校内研修の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒に関する教育実践交流（人権教育レポート研修会等）を実施する ・現地研修会や各種研修会への積極的な参加を促す ・各研修会の復講をさせる 	B	<p>○本校生徒に関する実践レポートを八代で開催された夏の研究集会で発表する事ができた。また八代で実施された、地区別学習会で本校の取組を発表することができた。</p> <p>●研修会における資料を配布し情報共有を図ったが、参加状況は芳しくなかったので、改善の必要がある。</p> <p>●参加した研修資料は情報提供に留まっているため、実践として生かせるよう学びの場を創造していく必要がある。</p>
	すべての教育活動を通じた取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の根幹に人権教育を据え、生徒一人ひとりを大切にしたい教育が実践されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育全体計画における各教科の目標を設定し教育実践を行う ・教育相談を充実する ・定期的な生徒理解研修の実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の目標に沿った授業作りをさせる ・各学期における面談週間を設定する ・SCやSSWと連携する ・生徒情報交換会で生徒の状況把握する 	B	<p>○学期ごとに面談週間を設け、生徒の状況把握が行えた。</p> <p>○今年度はSC面談にのべ28人、SSWの支援要請を5人行い、必要な生徒を専門家につないで、対応を行った。</p>
	命を大切にすることを育む指導	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動において、自己や他者を尊重し、命の大切さについて学ぶ指導できているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの存在を尊重し、それぞれがかけがえない存在であることを、学校全体の指導の中で理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解研修を年間で3回実施する ・人権をたしかめ合う日（毎月11日）に合わせて人権啓発係が挨拶運動を行う 	A	<p>○生徒理解研修を3回実施し、気になる生徒や配慮を要する生徒への対応の共通理解を図った。</p> <p>●人権啓発係の活動として、あいさつ運動と各学年の講演会での役割を担い、学校全体の人権意識の向上に努めた。</p>

いじめの防止等	いじめの理解と いじめの早期発見と組織的対応	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめへの認識を深め、早期発見し組織的に対応することができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に関する研修を実施する。 ・心のアンケートやスクールサイン等でのいじめが疑われる事案について即日対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめのサイン発見シートを活用する ・生徒・教職員の気づきを収集する。 ・生徒情報交換会において、日頃から生徒の様子を関係職員で共有し、早期の対応を行う 	B	<p>○心のアンケートをもとに、いじめを訴える生徒に対して、組織的に対応をした。</p> <p>○月2回の生徒情報交換会において、関係職員で必要な生徒の様子を把握し、適切に対応にした。</p>
	家庭や地域、関係機関との	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携を図り、学校以外の相談窓口について生徒や保護者に周知したか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの「いじめ問題の相談窓口の周知」の項目を生徒、保護者とも75%以上の肯定的な回答を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合格者説明会やPTA総会において保護者に対して相談窓口の周知を図る ・様々なチェックシートを配付するなど保護者への情報提供を適宜行う ・すぐーを活用して直接、保護者に周知を行う。 	B	<p>○合格者説明会、PTA総会に加えて、相談窓口等を生徒へ配布し、保護者へもすぐーでも告知を行った。</p> <p>○学校評価アンケートにおいて、生徒、保護者の回答は80.6%、72.6%で概ね、周知が行き渡っていると考えられる。</p>
地域連携（コミュニティ・スクール）	連携体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の提言に対して、学校としての取り組みを行っているか ・防災マニュアルの点検に取り組んだか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での提言を関係分掌と検討し、年度内に対応する ・避難所運営のマニュアルの点検及び情報の共有を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員への情報提供を行うことで会の活性化を図る ・危機管理マニュアル（避難所運営マニュアル）を更新し、職員に周知する 	B	<p>○学校運営協議会に情報提供することができた。</p> <p>○危機管理マニュアルを点検することができた。</p> <p>●危機管理マニュアルの情報共有を十分にはかることができなかった。</p>
	防災意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からの防災意識の向上に取り組んだか ・避難訓練や防災に関連する情報提供が効果的にできているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育のあり方を検討する ・命を守る具体的な行動をとることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の防災関係の研究大会等へ参加する ・シェイクアウト訓練、垂直避難訓練、火災訓練を実施する 	A	<p>○シェイクアウト訓練、垂直避難訓練、防災避難訓練を実施し、防災避難訓練では、日程や火災発生元を伏せて訓練に取り組んだ。事後アンケートでは98.3%の生徒が「放送を聞いて安全に避難することができた。」と回答した。</p>

その他	商業の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売実習「東高マーケット」やその他の校外活動の成功に向けて、机上の学習及び様々な体験的学習をとおして、望ましい勤労観・職業観を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業専門科目の授業および学習評価について工夫改善を行い、更なる言語活動の充実を図る 	A	○東高マーケットでは、マーケットリーダーを中心に、生徒自ら企画運営に取り組めた。主体的に活動したことで、勤労観や職業観の育成につながれた。また、本年度も本町アーケードで開催し、4000人の来場があり、地域活性に貢献できた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・商業の専門的な知識及び技術を習得するため、資格取得の指導を充実させ進路実現に活かすことができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検定試験の合格者を昨年度より向上させるとともに、個に応じた指導を充実させる ・学校評価アンケートで専門性の向上に対して肯定的な回答を80%以上にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業と個別指導の充実 ・商業系部活動を活用する ・外部指導者による講演等で意識を高揚させる ・将来の進路を意識させることで検定試験に対する意識を向上させ、学習活動を活発に行う 	B	<p>○日頃の学習の成果を試すことと学力を確立するため、各種検定試験に挑戦させた。授業を中心に学習会、個別指導を充実させることで、資格取得を意欲的に取り組めた。</p> <p>○日商簿記（7人）、ITパスポート（1人）など上級資格取得を目指し、合格者も出せた。</p> <p>○学校評価では、肯定的な回答が90%以上だった。</p> <p>●生徒の習熟度に応じた指導体制の整備を行う必要がある。</p>
	スポーツコースの専門性の向上とスポーツリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・競技力は向上しているか ・地域のスポーツ振興に貢献する人材が育成されているか ・進路の目標が達成されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・県大会で上位入賞と九州・全国大会出場及び入賞を目指す ・爽やかな挨拶・返事・清楚な身だしなみを徹底する ・基礎学力を向上させる ・学校評価アンケートで専門性の向上に対して肯定的な回答を80%以上にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点種目を中心とした指導の強化を行う ・体育科職員と部活動顧問の連携した生徒指導の推進を行う ・毎時間の授業に取り組む態度の醸成を行う 	B	<p>○インターハイ・九州大会にバドミントン・陸上で出場した。</p> <p>○卒業生で地域のスポーツ振興に貢献している者も出てきている。</p> <p>○進路は概ね目標が達成された。</p> <p>●全体的に生活面は良好であるが改善する部分もある。</p> <p>○学校評価アンケートで専門性の向上に対して肯定的な回答が80%以上あった。</p>